

# 指導と評価の一体化」に向けて

2018年度に道徳科の評価が始まってから3年が経過しました。道徳の評価はどのように実施すべきか、どうすれば「指導と評価の一体化」が実現できるか、お悩みの先生もいらっしゃるかもしれません。そこで、本誌では3名の先生をお招きして座談会を実施。その模様を2号連続の特別企画でお届けいたします。

前編となる今回は、長岡先生のご経験を中心に、日々の授業の評価の仕方や、評価を実施するうえで教師に大切にしてほしいことをテーマにお話いただきました。



敬愛大学  
教育学部  
こども教育学科  
教授  
市川 洋子



摂南大学  
教職支援センター  
特任講師  
谷口 雄一

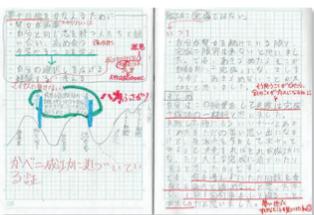


豊中市立  
島田小学校  
長岡 かの子

## 私の評価の仕方

**市川**：はじめに、実際に学校現場でお仕事されている長岡先生は、普段どのように道徳の評価を行われているのか教えていただけますか。

**長岡**：私は、子どもにとっていちばん意味があるのは、通知表や指導要録の評価ではなく毎回の授業ノートへのコメントだと考えています。私のクラスでは『道徳ノート』を使っているので、毎時間、子どもが書いたコメントをしっかり読み、気づいたこと、考えたことを「ちゃんと見たよ」ということを私からのコメントで伝えるようにしています。指導要録は子どもの手元に届かないこともあり、子どもとのつながりを考えると毎時間のやり取りが大切なかなと感じています。



▲毎時間の子どもの気づきへの  
フィードバックを大切にしている。

**谷口**：「評価」という言葉は、学期末とか年度末の締めくくりというイメージがとても強いのですが、「指導と評価の一体化」を実現するためには毎時間の評価がとても大切だと思います。子どもたちが考えたことについて、道徳の評価のキーワードを借りれば「認め励ます」「すごいね」「そういうこと考えるんだ」などの声かけを続けることが必要です。

**市川**：前提として、「評価」には、指導要録や通知表に書く成績を付ける“evaluation”（エバリュエーション）と、**子どもの成長を見取るためにさまざまな情報を集め、その情報をもとに教師がフィードバックを行う“assessment”（アセスメント）**の2種類があります。

私は、道徳に必要なのはアセスメントのみだと考えており、日々の授業の中で、子どもたちの成長を見取れるような情報を収集することがとても大切だと思います。

長岡先生は、コメントや評価をするとき、子供の成長をしっかり見取るためにどのようなことに気をつけていらっしゃいますか。

**長岡**：その子の言葉を取り入れて評価するように気をつけています。例えば、「親切の大切さについて考えました。」という評価は子ども全員に当てはまってしまうですね。そうではなく、子どものノートの言葉を用いて、「本当の親切とは○○ということだと考えました。」というように、その子だけの変化をしっかりとらえた評価ができるように気をつけています。

**市川**：さらに言えば、子どもがもともと持っている部分ではなく、授業の中で成長した部分を評価したいですね。例えば、「優しさの大切さに気づきました。」というような評価もよくあると思うのですが、ほとんどの子どもはもともと「優しさ」の大切さを知っていると思うんです。

**谷口**：「優しさ」の例であれば、場面に応じた適切な

行動は何か、具体例をたくさん考えることができれば多角的な見方ができるようになったといえると思います。全員に当てはまる定型文の評価ではなく、一人ひとりをしっかり見てオーダーメイドの評価ができるとよいですね。

## 言葉だけではない見取り方

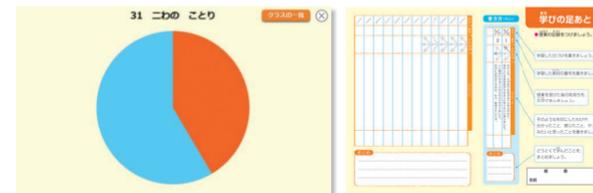
**市川**：ノートを通じて日々の評価をする中で、難しさを感じる場面はありますか。

**長岡**：ノートを書くことが苦手な子どももいるので、そういった子をどのように評価すればよいのかが難しいと感じています。

**谷口**：私が小学校の教員をしていたときは、給食や掃除の時間などの雑談の中で「前の授業であまりノート書いてないみたいだったけど、どう思った？」と聞いてみたり、ゼロから答えさせるのではなく「こんな考えとこんな考えがあったけど、どっちの考えに近い？」というような答えやすい質問を投げかけてみたりしていました。

あとは、「他の子の意見を聞いたときにじっと考え込んでいたよね。」というように、授業中の様子から内面を探ってみるのもよいと思います。

**市川**：一人ひとりの授業の様子を細かに観察することは難しいので、「こころツール」の心情円盤や「学びのあしあと」の矢印の動き・顔の表情など、言葉を使わずに内面を表現させられるツールを活用するのも有効な手段かもしれませんね。



▲こころツール

▲学びのあしあと

## 道徳科の評価 4つのポイント

- ポイント ① 学期末・年度末だけでなく、毎時間の評価も大切に！
- ポイント ② 授業を通しての子ども一人ひとりの変化をとらえ、評価する！
- ポイント ③ 言葉を使わずに内面を表現できるツールも活用する！
- ポイント ④ 周囲の人と自分をつながていける授業づくりにもトライ！



▶▶ 後編は、6月発行予定のVol.12に掲載！ お楽しみに！